

研究 主題	小学校体育における運動の二極化改善に向けた指導法の構築 ー協働的な学びの中で、自己肯定感と挑戦意欲を高める授業のデザインー
----------	--

第5学年体育科学習指導案

指導月日 令和7年10月8日
所属校名 角田市立金津小学校
氏名 三代 和正

1 単元名 ボール運動「タグラグビー」

2 単元（題材）の目標

- (1) ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
〔知識及び技能〕E(1)ア
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕E(2)
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりしようとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕E(3)

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領体育〔第5学年及び第6学年〕内容「E ボール運動」「ア ゴール型」を受けて設定した。

高学年のゴール型の運動は、その行い方を理解するとともに、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。特にタグラグビーは、身体接触を伴わずに誰もが安全に取り組める一方で、ラグビーの持つ戦術性や連携の楽しさを体験できる運動である。ボール保持者はラン、パス、トライを目指し、守備側はそれを防ぐためにタグを取るという攻防の役割が明確であり、ボールの保持・非保持に関わらず、全ての児童が常に状況を判断し、攻守に参加し続けることが求められる。その特性を生かし、仲間と共通の目標に向かって協力して取り組むことで、一人一人が自分の役割を果たし、自己肯定感と学習への挑戦意欲を高めていくことができる。タグラグビーの学習を通して、集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜びを味わいながら、簡易化されたゲームをすることができるようにしていき、中学校の球技の学習につなげていくことができる単元となっている。

4 児童の実態〔5年1組：男子12名 女子11名 計23名〕

本学級の児童は、体力・運動能力調査の結果から、「反復横跳び（敏しょう性）」「立ち幅跳び（瞬発力）」「50m走（スピード・男子のみ）」の記録が全国平均を下回っており、タグラグビーにおいて必要とされる機敏な動きに課題を抱える児童が多い。これは、攻防の場面で失敗を恐れる一因となる可能性がある。

運動に対する意識調査では、運動が「好き」と回答する児童が半数程度いる一方で、「やや嫌い、嫌い」と感じる児童が全国平均を上回るなど、運動への意欲に二極化が見られる。特に男子にその傾向が顕著で、失敗やうまくできないことへの不安を感じていることも分かった。しかし、「誰かと一緒にやると挑戦する気持ちになれる」や「ペア、グループで協力して運動する」に肯定的な回答が多く、友達と活動することの良さを感じている児童が多くいることも分かった。活動相手としては「自分と同じぐらい」の技能を持つ友達を最も多く望んでいた。その一方で、「運動が苦手な友達にどう教えれ

ばよいか迷う」と感じる児童も多く、教え合う場面で戸惑いを感じていることも分かった。

これらの実態を踏まえ、一人一人が自信を持って活動できる安心な環境を整えることや協働的な学びを促すために、ペアやグループ活動の充実を図っていくことが重要と考える。

5 指導観

児童の実態を踏まえ、安心して挑戦する気持ちを持たせるために、自分と同じぐらいの技能レベルの児童同士でペアを編成（能力別集団）し、活動することを主とする。また、学習の発展やねらいに応じて、意図的に多様な技能の児童でグループ編成し、自分とは異なる視点や動きに触れさせることで、新たな気付きを得たり、学びを一層広げたりする機会を確保したい。さらに、協働的な学びを活性化させ、児童一人一人が安心して挑戦できる環境を整えるための「関わり方スキル」を手掛かりとして、見る「視点」・表現する「言葉」・高め合う「言葉掛け」を具体的に指導することで、児童同士で教え合う場面での困り感を解消し、学び合いを活性化させていく。

これまでは単元の終盤にゲームの時間を多く設けることが多かったが、本単元では毎時間簡易ゲームを取り入れる。また、単元中盤にはグループの問題点を明確にするためのゲームを設定する。ここで明確になった問題点を単元終盤で解決し、その後のゲームで成果を試すという学習サイクルをつくり上げたい。

学びを深めるための振り返り活動では、児童がじっくりと自身の動きやチームの連携を確認できるように、試合の様子を撮影した動画をオンライン授業支援ソフトで共有し、家庭で振り返りを行わせる。その上で、オンライン表計算ソフトを活用した振り返りシートに、仲間の良かったプレーや具体的なアドバイスを記入させる。これにより、他者評価の機会を充実させ、互いを認め高め合う態度を育成する。

なお、運動遊びや遊びの要素を取り入れたウォーミングアップを継続的に行っていくことで、楽しみながら体の調整力や柔軟性を高め、無理なく体を動かす感覚を養っていききたい。

これらの活動を通して、児童一人一人が運動感覚を養い、自信を深めることで、自己肯定感が高まり、新しい活動に積極的に挑戦する前向きな姿勢を育てていく。そして、運動意欲を向上させ、運動意欲の二極化を改善したい。

6 研究主題との関連

運動技能が向上すれば成功体験から運動意欲が高まり、その意欲が積極的な運動機会の増加につながるように、「運動意欲」「運動機会」「運動技能」は密接に関係し合っている。運動に苦手意識や失敗への不安を抱える児童にとって、新たな一步を踏み出すための原動力となるのは「やってみたい」「仲間と一緒にできそうだ」という運動意欲である。運動機会を保障しても、運動技能を指導しても、本人の心の中に挑戦しようとする意欲がなければ、その効果は限定的になってしまう。そこで本研究では、この「運動意欲」の二極化の改善を主に目指し、研究を進めていく。

本主題に迫るために、以下のような手立てを講じていく。

(1) 【手立て1】協働による学び合いの工夫

①ペア（トリオ）の編成については、運動能力別や異質集団、性別ごとの集団などがあげられるが、自分と同じぐらいの技能レベルでの集団（運動能力別）を主として活動し、児童が課題を共有して、話し合いながら安心して取り組めるようにする。また、ペア（トリオ）活動の発展として、それぞれのペア（トリオ）同士が一緒になって活動することで、様々な運動能力を持った児童と協働による学びを展開する機会についても単元全体の中で設定していく。

②児童同士で他者評価の際の手掛かりとして、互いを認め高め合う「関わり方スキル」を育成し、具体的に指導することで、児童が自信を持って意欲的に互いの技能を高め合えるようにする。

ア 動きを見る「視点」

各種目の特性に応じて、どこに注目すれば上達につながるか（目線やボールの持ち方、ステ

ップの踏み方など）を指導し、観察の観点を明確にする。

イ 表現する「言葉」

「グッと」「フワッと」といったオノマトペや「もう少し腰を低くするといいよ」などの「具体的な言葉」を用いて、自分がかんだこつや仲間の動きの改善点を伝えられるように促す。

ウ 高め合う「言葉掛け」

「いい感じだね」「その調子」「次いけるよ」といった肯定的な言葉を掛けるなどして仲間が安心して挑戦できる雰囲気をつくる。

(2) 【手立て2】多様な動きを育む補強運動の工夫

運動遊びや遊びの要素を取り入れたウォーミングアップにより、様々な動きを通して楽しみながら体の調整力や柔軟性、持久力をバランスよく高め、日常的に運動に親しむことができるようにする。また、継続的に補強運動を行っていくことで、基本的な体の使い方や身のこなしを身に付け、体力向上を図ることができるようにする。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①相手のいない位置に動いてパスを受けることやボールを持った前へ進むなど、タグラグビーのルールについて理解している。</p> <p>②ボールを持ってトライしたり、相手のタグを取ったりすることで、簡易的なゲームをすることができる。</p>	<p>①自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぼうとしている。</p> <p>②課題解決のために自分や仲間が考えたことや動き方のこつについて、他者に伝えようとしている。</p>	<p>①簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②ルールやマナーを守り、仲間の考えや取組を認め、助け合おうとしている。</p> <p>③ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>④使用する用具などの片付けをしたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配ろうとしている。</p>

(2) 単元の全体計画（7時間扱い 本時 6 / 7）

業前	○学習の見通しを持たせる ○フィードバックの共有 *週に1回程度行う（10分間）						
時	1	2	3	4	5	6（本時）	7
目標	安全に運動するための約束や用具の扱い方を理解し、仲間と協力して活動することができるようにする。	様々な動きを通して、ボールを保持したときや保持しないときの動き方を知ることができるようにする。	ボールを持って走ったり、かわしたりする基本的な攻撃の動きを身に付けることができるようにする。	トライするための作戦や動き方のコツを伝え合いながら、練習することができるようにする。	ゲームを通して自己の課題やチームの課題を明確にすることができるようになる。	自己やチームの課題に応じた練習に取り組み、簡易ゲームで生かすことができるようにする。	これまでの学習を生かして、作戦や動き方のコツを伝え合いながら、ゲームをすることができるようにする。
導入	1 準備、整列、挨拶 2 準備・補強運動【手立て2】 3 めあての確認						
	【補強運動】 サーキット トレーニング	【補強運動】 ステップ トレーニング	【補強運動】 一列鬼	【補強運動】 円陣パスゲーム	【補強運動】 マーカー鬼	【補強運動】 しっぽとり鬼 (チーム対抗)	【補強運動】 グループごとに 選択する
	4 ペア練習 (運動能力別) 【手立て1】 ・三角鬼 ・ミラー鬼 ・手つなぎタグ 取り	4 ペア練習 (運動能力別) 【手立て1】 ・1対1 ・ラン&パス	4 ペア練習(運動能力別)【手立て1】 ○ペアの実態に応じて、基礎的な技能を高める。 ・手つなぎタグ取り(片手をつないでお互いのタグを取る) ・ミラー鬼(左右に置いてある2つのマーカーをタッチながら、鬼を揺さぶり捕まらないようにマーカーを通過する。鬼は、逃げる人と同じ動きをする) ・ラン&パス(前進しながらランとパスを繰り返し行う) ・1対1(フェイントを交えながら捕まらないように通過する)など				
	5 グループ練習 (ペアの発展) 【手立て1】 ・トライゲーム ・1列鬼	5 グループ練習 (ペアの発展) 【手立て1】 ・円陣パス ・ボール鬼 ・マーカー鬼	5 グループ練習(ペアの発展)【手立て1】 ○グループで目標を設定して、チーム練習に取り組む。 ○様々な能力集団で、協働的な学びを行う。 ・トライゲーム ・1列鬼 ・円陣パス ・ボール鬼 ・マーカー鬼 ・3対2 ・2対3 ・フォーメーション など				
6 やってみよう (簡易ゲーム) 【手立て1】 ・しっぽとり鬼	6 やってみよう (簡易ゲーム) 【手立て1】 ・ラインゲーム	6 やってみよう(簡易ゲーム)【手立て1】 ○チームで作戦を立てて、ゲームを行う。 ・ラインゲーム ・3対3 ・5対5 など *5対5のゲームのときは、「ゲーム」「審判」「作戦会議・振り返り」の3つの役割に分け、ローテーションで取り組ませる。					
学 習 開	*4と5の活動を短縮し、試しのゲームを行う。						
	7 学習の振り返り 8 整理運動 9 片付け、整列、挨拶						
終末							
家庭	○学習のフィードバック(オンライン表計算ソフトで作成した学習カードに記入) 授業で撮影した動画や友達のコメントを見て、良い点や課題点を知り、次時への意欲を持たせる。						
評価の 重点	知			②(観察)		③(観察)	
	思				①(観察)	②(学習カード)	
	態	②④(観察)		①(観察)		③(観察)	②(観察・学習カード)

8 本時の計画

(1) 目標

自己やチームの課題に応じた練習に取り組み、簡易ゲームで生かすことができるようにする。

(2) 本時の指導に当たって

児童が自信を持って運動に取り組み、様々なことに意欲的に挑戦することができる姿を目指すために、以下の手立てを講じていく。

①【手立て1】協働による学び合いの工夫

- ・展開場面では、児童が安心して活動するために、運動能力別に分けたペア（トリオ）で活動させる。ペア（トリオ）の実態に応じて練習内容を選び、取り組ませる。その後、ペア（トリオ）同士が合わさり、様々な能力集団の5、6人グループになり活動する（ペアの発展）。

*ペア（トリオ）や発展グループの決め方は、教師がグループ決めの視点を与え、児童が主体となって数回の話合いを通して決定した。（業前の時間を活用し、週に1回程度実施）

〈グループ決めの視点〉

- 自分たちが安心感を持って、意欲的に活動すること。
- 困り感を共有し、一緒に練習したり相談したりできる相手であること。
- タグラグビーの特性（走る、取る、勝敗、ルール変更）を基にすること。
- ・ペア（トリオ）の活動では、児童が的確な他者評価を行い、協働的な学びを深められるよう「関わり方スキル」を育成する。

ア 動きを見る「視点」

*ボールを持ったとき：相手をかかわす動き、パスの出し方、パスの取り方など

*ボールを持たないとき：パスのもらい方、声やジェスチャーの仕方、タグの取り方など

イ 表現する「言葉」

*オノマトペ：スッと、パッと、フワッと、ガシッと、グッとなど

*具体的な言葉：相手がいなくて走る、味方の胸にパス、低い姿勢など

ウ 高め合う「言葉掛け」

*声が出てるね、フェイントがうまい、今のを続けよう、ナイスチャレンジなど

これらを具体的に指導することで、児童が自信を持って互いの技能を高め合えるようにし、グループ活動の充実を図っていく。

②【手立て2】多様な動きを育む補強運動の工夫

- ・本時の主運動であるゲームへ生かせるように、チーム対抗しつぽとり鬼を行う。また、このような活動を継続して行うことで、運動において必要となる身のこなしや基本的な体の動かし方を高めていく。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 10分	<p>1 整列・挨拶・準備をする</p> <p>2 準備・補強運動に取り組む ・しっぽとり鬼の準備をしよう。</p> <p>3 本時のめあてを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 前回の課題からペアで決めためあてに向かって練習に取り組もう。 </div>	一斉 グループ	<p>◎素早く安全に準備することができるようにする。</p> <p>◎本時の主運動につながる動きを取り入れる。【手立て2】</p> <p>◎前時のゲームの課題から自己に応じためあてを一人一人に持たせる。</p>	
展開 30分	<p>4 ペア練習（運動能力別） ○前時の課題を少しでも改善できるように練習に取り組もう。相手にアドバイスをするときは、視点を意識しよう。 ◆パスの練習をしよう ◆1対1をしたいな</p> <p>5 グループ練習（ペアの発展） ○前時に立てた作戦を確認して、練習に取り組もう。 ◆ボールを持ったら、必ず前へ走る ◆マークする相手を決めて守る</p> <p>6 やってみよう（ゲーム：5対5） ・ゲームグループは、グループの作戦をゲーム中に生かせるように頑張ろう。 ・審判グループは、審判をしながら試合中のチームの良い点を見付けよう。 ・待機グループは、試合に向けて作戦会議やゲームの反省をしたり、グループ練習に取り組んだりしよう。</p>	ペア グループ	<p>◎ペアで具体的な達成目標を立てさせ、お互いの課題に応じた練習に取り組ませる。</p> <p>◎前時まで学習した練習メニューや自分たちでアレンジした練習などに取り組ませる。</p> <p>◎発展グループ場所で活動させる。</p> <p>◎グループごとにゲームに向けての作戦の確認をさせ、自分たちに必要な練習に取り組ませる。</p> <p>◎ペアやグループ練習の様子を見ながら、手本となる動きを教師が示したり、児童にさせたりする。</p> <p>◎ゲームは、勝敗に関わらずお互いの活動を認め合うことができるようにする。</p> <p>◎1試合ごとに審判の補助をさせることで、他グループの良い点やクラスメイトの頑張りに気付かせたり、タグラグビーの理解を深めさせたりする。</p> <p>◎審判役の児童（1名）にゲームの動画を撮らせる。</p> <p>◎関わり方スキルの視点に沿って、ゲームについて振り返り、次時の作戦を決めさせる。</p>	【思考判断表現②】 【知識技能②】
終末 5分	<p>7 学習の振り返りをする ○今日のめあてがどのくらい達成できたか振り返りをしよう。</p> <p>8 整理運動</p> <p>9 片付け、整列、挨拶</p>	グループ 一斉	<p>◎めあてに対しての振り返りを口頭で行い、次時への意欲をつなげる。</p> <p>◎安全に配慮しながら片付けるように指示する。</p>	

(4) 本時の評価

	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	努力を要する児童 (C) への手立て
知識技能	・ボールを持ってトライしたり、相手のタグを取ったりすることができる。	・空いているスペースでパスをもらってトライしたり、相手の動きを予測してタグを取ったりすることができる。	・パスを求めるときの声の掛け方やジェスチャーについて教師が模範となる動作を示し、児童に取り組みさせる。
思考判断表現	・グループの仲間に、考えたことや動き方のコツを伝えようとしている。	・グループの仲間がより上達できるように、考えたことや技能面のコツを具体的に伝えようとしている。	・具体的な視点（ラン、パス、守備など）を提示し、視点に沿って話をさせる。

(5) 準備物

① 教師：電子黒板、移動黒板、タブレット端末、マーカー、ボール、得点版、審判フラッグ、電子ホイッスル、ゼッケン


② 児童：タグセット

(6) 板書計画


6 / 7 時間目

前回の課題からペアで決めたためあてに向かって練習に取り組もう。


① 三角鬼：三角形の周りで鬼ごっこ！



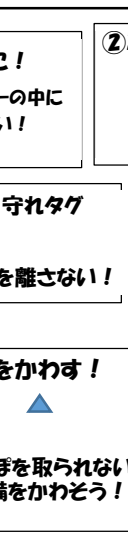
② ミラー鬼：左右にゆさぶり、かけ抜けろ！




③ 手つなぎタグ取り：わらえタグ！守れタグ



④ 1対1：巧みなステップで相手をかかわす！



⑤ ラン&パス：攻めるために走り切れ！



ナイスチャレンジ

さっきよりいいね その調子

ボールを持ったら前へ

A グループ

C グループ

B グループ

D グループ

フワッと バツと

腰を低く

(7) 場の設定

